

## 事例 14 静岡県榛原町

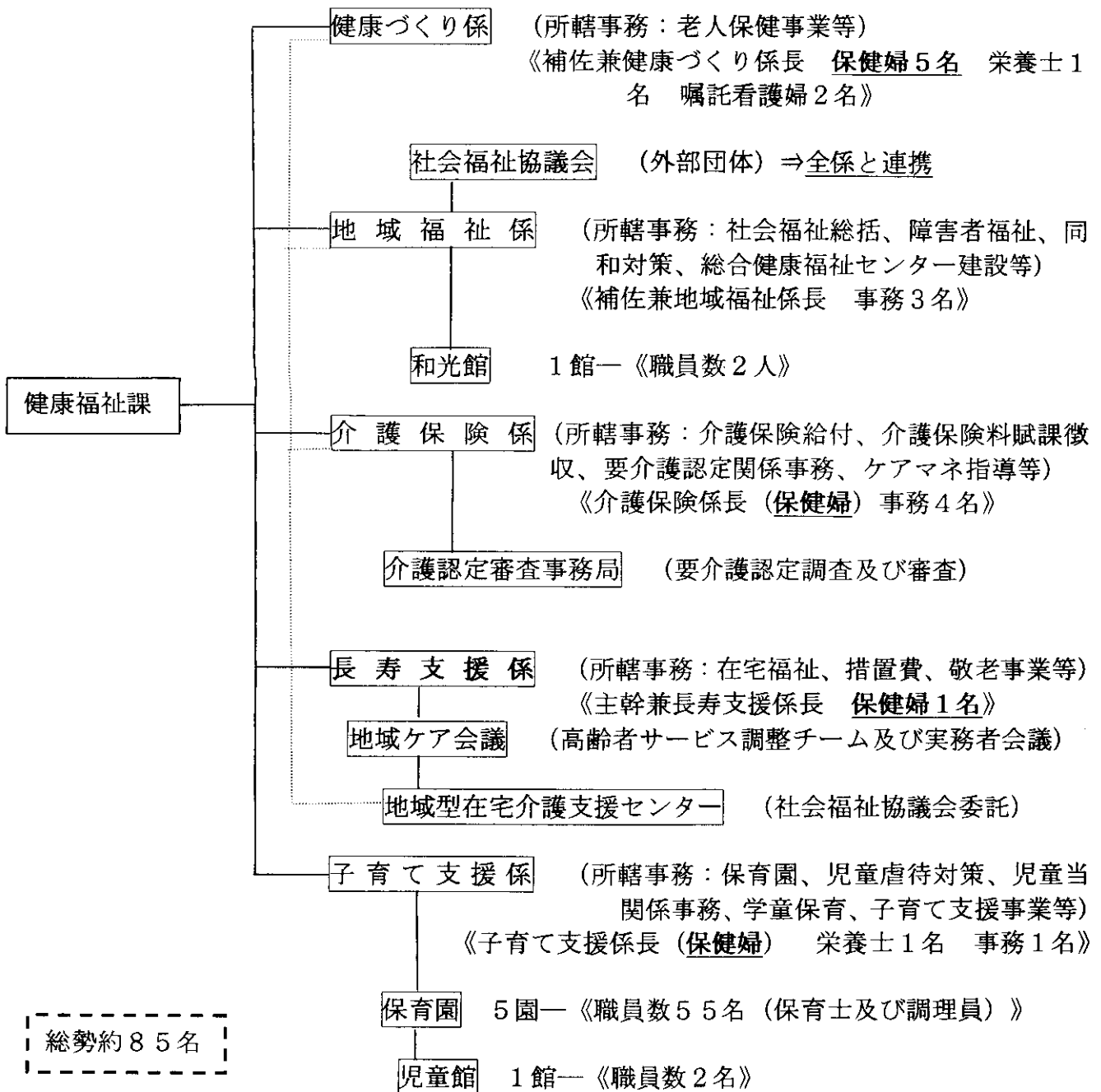
人 口	26,258 人
高齢者数	5,193 人
高齢化率	19.78%
担当部署	健康福祉課長寿支援係

# 1. 市町村の概況

市町村の沿革概要	<p>榛原町は、南は駿河湾に面し年間を通じてマリンスポーツのメッカとなる静波海岸、北は茶どころとして全国的に有名な牧之原台地を控え、温暖な気候のため大変過ごしやすい町である。高齢化率は平成13年4月1日現在で19.78%（外国人を含む）であり、高齢者がいつまでも元気で過ごすことができるように地域で支える体制作りが必要となってきた。</p> <p>平成11年度策定した高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画では、「要介護や要支援状態への予防を含めた高齢者の生きがいや自立支援を目指す」ことを理念として、現在、計画を推進しているところである。目まぐるしく変化する情勢を勘案し、行政主導型から住民主導型の健康づくり、生きがいづくり、地域づくり活動へと移行できるよう、町が支援を始めている状況である。</p>								
人口	26,258 人			高齢者数（高齢化率）			5,193 人( 19.78 %)		
世帯数	65歳未満の者のみの世帯			65歳以上の者のいる世帯					
	4,123 世帯			単独世帯	65歳以上夫婦のみの世帯				その他
				282世帯	280世帯				2,914世帯
要介護認定（申請）者数	申請中	非該当	要支援	要介護1	2	3	4	5	合計
	9	3	63	147	100	90	100	94	594
社会	指定居宅サービス事業所（か所数）			訪問看護（3）	訪問介護（4）	通所介護（4）			
				通所リハ（0）	短期入所系（1）	その他（0）			
会	指定居宅介護支援事業所（か所数）			4（介護保険関連データは平成13年12月末現在）					
資源	保健センター			保健センター：1か所					
	在宅介護支援センター（か所数）			在宅介護支援センター：1か所（平成14年度には行政直営の基幹型と、地域型を1か所開設する予定である。） *現在、総合健康福祉センター（仮称）を建設中であり、平成14年12月頃完成予定である。					
状況	介護予防事業の拠点となりうる場（か所数）（公的施設以外も含む）			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きがい対応型デイサービス施設（生きがいガーデンこにた）1か所</li> <li>・各町内の公民館 52か所</li> <li>・区の拠点 6か所</li> <li>・老人福祉センター 1か所</li> </ul>					
	介護予防事業の担い手となりうる組織・団体（組織・団体数・人員数）			<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きがいリーダー連絡協議会「ハッピー」 27人</li> <li>・ボランティア「かえで」 18人</li> <li>・在宅介護支援センター 2人</li> <li>・健康福祉課（健康づくり係・長寿支援係）保健婦6人</li> </ul>					

※データについては、できるだけ直近のものをお願いします。

## 2. 市町村の高齢者保健福祉行政の組織図



★ 榛原町では長寿支援係を中心に各係と連携をとり、介護予防活動等に取り組んでいるため、全係を掲載した。(特に、子育て支援係とは世代間交流等の関係で連携をとっている。)

- ※1 職員配置状況や所掌事務等についてもご記入願います。
- ※2 市町村直轄以外の在宅介護支援センター等についても組織図に書き込んでください。
- ※3 地域ケア会議等についても組織図に書き込んでください。

### 3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1)</p> <p>「介護予防事業」に関連（類似）する事業がありましたか？</p>	<p>( <input type="radio"/> ) 関連（類似）事業があった。 →問2～問4へ</p> <p>( <input type="checkbox"/> ) 関連（類似）事業はなかった →問5へ</p>
<p>(問2)</p> <p>実施していた事業は、どのような根拠に基づき、どの部局が所管していた事業ですか？</p> <p>また、その事業内容についてもご記入下さい。</p> <p>※既存資料で、事業内容等わかるものがあれば添付して下さい。</p>	<p>*町の事業ではなく、社会福祉協議会で類似した事業を行っていた。（町から補助金を出していた。）</p> <p>&lt;補助金名&gt;          みんなで支える地域福祉活動促進事業          （県社会福祉協議会補助金）          県社協 1 / 2          町補助金 1 / 2</p> <p>&lt;所轄部局&gt;          社会福祉協議会</p> <p>&lt;事業内容&gt;          事業名：「サポーター養成講座」          目的：地域で活動するボランティアを養成する。          対象者：年齢を問わない          実施回数：年8回の集中講座（3年間実施）          スタッフ：社会福祉協議会職員、外部講師</p>
<p>(問3)</p> <p>上記事業の効果測定（評価）を行いましたか？</p>	<p>( <input type="checkbox"/> ) 行った      ( <input type="radio"/> ) 行っていない</p> <p>(具体的方法)</p>

### 3. 「介護予防事業」を企画する前の状況について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問4)</p> <p>従来の事業を「介護予防事業」という形で見直したり、また新たな施策を企画することになった経緯について下記の様な点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中心となった部局はどこか？</li> <li>・ 何がきっかけとなり、どのような判断をしたのか？</li> </ul>	<p>&lt;中心となった部局&gt; 健康福祉課（介護保険係・福祉係の高齢者担当）</p> <p>&lt;事業見直しの動機&gt; 平成11年度に高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策定時に、既存の事業を見直し今後必要となる事業等の検討を行った。当時、厚生省から出されていた補助金事業のメニューを中心に、高齢者や障害者を支えるためのサービスについて、住民や保健福祉関係者等を交えて協議した。</p> <p>本事業の企画にあたっては、上記で協議して整備したサービスを平成12年度に実施した結果、地域での予防活動を強化していく必要があると感じた。その結果、地域で健康づくり・生きがいくづくり・地域づくり活動を実施する人材を養成しようと企画した。</p>
<p>(問5)</p> <p>(問1)で、関連(類似)事業がなかったと答えた市町村にお聞きします。</p> <p>今般、「介護予防事業」に取り組もうとしたきっかけは何ですか？</p>	

#### 4. 「介護予防事業」の企画立案体制について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1)</p> <p>「介護予防事業」の企画立案体制について下記のような点を含めて記入して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような場を利用し、どのような機関・団体等と協議したのか？</li> <li>・学識経験者や現場の担い手などの意見をどのように採り入れたか？</li> <li>・高齢者やその家族、地域住民等の参加する機会があったのか？</li> <li>・どの部局が中心となって企画し、他の部局との協力体制は、どうであったのか？</li> </ul>	<p>健康福祉課内の高齢者福祉担当が中心となって企画して、高齢者サービス調整チームの実務者会議の場で図った上で実施に移した。</p> <p>実務者会議のメンバーは、行政の保健福祉、介護保険担当者及び保健婦、福祉サービス委託先職員、病院ケースワーカー、生活支援センター相談員、在宅介護支援センター職員、社会福祉協議会ボランティア育成担当等であり、流動的に必要な職種をメンバーに加えている。</p> <p>企画の段階で行政内の関係する課に合議し、必要性を理解してもらった上で、連携を取りたい旨を伝えた。</p>
<p>(問2)</p> <p>「介護予防事業」を企画する際、下記の様な検討事項があったと思います。</p> <p>貴市町村での検討事項と検討内容、その結果について記入して下さい。</p> <p>(検討事項例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズをどのように把握するか？ (ニーズ把握の方法)</li> <li>・事業対象者の選定方法はどうか？</li> <li>・事業に従事する人材をどのように確保するか？</li> <li>・既存の設備の利用が可能か？</li> <li>・新たな設備整備が必要か？</li> <li>・どの部局の事業予算をどのように確保するか？</li> </ul>	<p>&lt;介護予防指導者養成に携わる人の選定&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講座の応募した者の「やる気」を起こさせるような、力量のある信頼のおける業者を選定。</li> <li>・ボランティア養成の経験があり、保健・福祉・医療の情勢に敏感な業者を選定。</li> </ul> <p>&lt;受講生の募集&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報やちらしのPRによる、一般公募の形式とした。</li> <li>・保健計画から、必要な人材は個別に説明をして応募してもらった。</li> </ul> <p>&lt;人材の確保&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年計画である程度の人数を養成して、地域へ帰す。</li> </ul> <p>&lt;予算確保&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護予防生活支援事業補助金(国県)の使用</li> <li>・1/4が一般財源となる。</li> </ul> <p>*本事業はソフト事業であるため、人材養成に必要な部屋が確保できれば実施可能である。</p>

## 5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1)</p> <p>企画した「介護予防事業」の内容について記入して下さい。</p> <p>※事業の実施要綱、事業概要があれば添付して下さい。</p>	<p>事業名：「介護予防指導者養成事業」</p> <p>事業目的：「将来、寝たきりや痴呆にならないで、元気に高齢期を過ごす」という1つの目標に向かって、子供の頃からその予防活動に取り組むことを支援するリーダーを養成して、地域で高齢者を支える体制を整備することを目的とする。</p> <p>対象者：町内の方（年齢等は限定しない）</p> <p>事業内容：①介護予防指導者の養成研修会（生きがいリーダーの養成研修会） ・ ②連絡会の立ち上げ ③介護予防事業の啓発</p> <p>実施期間：7月から11月 実施回数：9日間（30時間） 実施体制：スタッフ⇒担当係2名＋委託業者2名 研修内容⇒講義と実技、実践発表 （詳しくは資料を参照）</p> <p>事業予算：1,924千円（国県補助金1,361千円、一般財源563千円）</p> <p>補助金：介護予防生活支援事業（地域住民グループ支援事業）</p> <p>事業所轄：健康福祉課 長寿支援係 他課との連携：生涯学習課、企画公室課、社会福祉協議会、ボランティア連絡会など</p> <p>事業PR：自治通信、厚生福祉、公衆衛生情報、ガバナンス、静岡新聞、中日新聞、東京都介護予防指導者養成講習会事例紹介</p>
<p>(問2)</p> <p>住民に対して、どのように事業を周知しましたか？</p> <p>※周知するための広報資料の現物の写しなどがあれば添付して下さい。</p>	<p>&lt;周知方法&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町の広報誌</li> <li>・各地区における評議委員会で説明</li> <li>・子供会育成会役員会で説明</li> <li>・各地区における遊びリレーション事業</li> <li>・各地区の行事</li> </ul>

## 5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問3)</p> <p>「介護予防事業」の実施状況(実績)について記入して下さい。</p> <p>※貴市町村での実施状況(実績)をまとめた資料があれば添付して下さい。</p>	<p>&lt;平成13年度実施状況&gt;</p> <p>事業名：生きがいリーダー養成講習会            事業費：1,924千円            実施回数：9回(30時間)            出席者数：延べ221人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きがいリーダー連絡協議会「ハッピー」を設立</li> <li>・各地区ごとに遊びリレーション事業等を展開中</li> <li>・各地区における名人探しを実施し、名人図鑑作成中</li> </ul>
<p>(問4)</p> <p>現在実施している「介護予防事業」の実施状況を見て、うまくいっていると感じられるのはどのような点ですか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生きがいリーダーの養成において、受講者の「やる気」を起こさせる内容であったため、かなり意識が向上した。</li> <li>・自主活動に移行した現在でも、意欲をもって事業を展開している。</li> </ul>



## 5. 「介護予防事業」の実施について

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問5)</p> <p>うまく事業をすすめるために工夫している点などがあれば記入して下さい。</p>	<p>&lt;工夫した点&gt;</p> <p>①生きがいリーダー養成に携わる講師は、受講生にやる気を起こさせる力量のある人に依頼した。</p> <p>②養成プログラムの内容は、即実践につなげることを想定したものとした。</p> <p>③リーダーの質の向上を行うため、連絡会を組織し、それに対して行政が支援する形をとった。</p> <p>④高齢者保健福祉計画を推進するための「生きがいリーダー」の、役割や位置付けを明確にした。</p>
<p>(問6)</p> <p>今後、課題と感じている点があれば、それについても記入して下さい。</p>	<p>・現在27名の生きがいリーダーのうち、男性は2名だけなので、今後は男性の参加を促し、男性の持ち味を生かした事業実施ができるようにしたい。</p>
<p>(問7)</p> <p>現時点で課題と感じている点に対し、考えられている対応策等あれば記入して下さい。</p>	<p>・男性の参加を促すため、平成14年度以降は講習会の開催を休日・夜間に実施することも検討する。</p>

## 6. 「介護予防事業」の評価について

※行政が主体となって実施する（直轄・委託）保健・福祉事業に対する評価について伺います。

質 問 項 目	回 答 欄
<p>(問1)</p> <p>「事業ごとの評価」について伺います。</p> <p>①各事業メニューごとに評価を行っていますか？</p> <p>②具体的な評価方法について記入して下さい。 (評価指標、評価時期、評価者等)</p> <p>※「事業ごとの評価」を行っている評価の資料があれば、添付して下さい。</p>	<p>( ○ ) 行っている。→②へ</p> <p>(     ) 行っていない。</p> <p>&lt;生きがい対応型デイサービス事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半年ごとに、浜松方式による痴呆二段階テストや老研式活動能力指標、その他独自に開発した生きがい度の質問表等を使用して、保健婦が評価を行なっている。</li> </ul> <p>&lt;痴呆予防教室&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・半年ごとに、浜松方式による痴呆二段階テストを実施し、保健婦が中心に評価を行なっている。</li> </ul> <p>&lt;介護予防指導者養成事業&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この事業の評価は難しいが、今後、町の健康度や生きがい度の向上について調査を検討したい。現在の連絡会の活動の様子を見ると、遊びリレーション教室参加者から好評を得ている。また、手ごたえを感じると共に住民の中に生きがいリーダーの存在が周知がされつつあると感じる。</li> </ul>
<p>(問2)</p> <p>「介護予防事業全体の評価」について伺います。</p> <p>①介護予防事業全体としての費用対効果をどのように評価していますか？ また、今後どのように評価したいと考えますか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用対効果として厳密に評価を実施していないが、現在は国県の補助金があるため、1/4の一般財源で事業が実施できている。特に生きがい対応型デイサービス事業においては効果が上がっている結果が出ているため、費用に対する効果は大変大きいと考える。</li> <li>・補助金が利用できるうちに体制を見直し、将来的には運営から経営的視点で事業が実施できるよう、検討していきたい。</li> </ul>
<p>②各種の介護予防事業関連施策における定量的あるいは定性的な評価指標などがあれば記入して下さい。</p>	<p>介護予防事業等においては、目標とするものが生きがい度の向上や、閉じこもり予防であることが多いと考えられる。そのためそれら进行评估する指標が必要である。本町の使用している質問票にもあるように、「PGCモラルスケール」が過去から見た現在の变化进行评估できるので、大変良いスケールであると思われる。その他に、エフェクトバランス・スケールもあるが、調査時点での精神状態の影響を受けるため、長いスパンの比較には適さないと思われる。</p>

件名

介護予防指導者育成事業の実施について

健康福祉課 長寿支援係

1 事業の目的

平成12年4月1日調査より榎原町の高齢化率は20%を越え、既に超高齢化社会を迎えている。更なる長寿社会を迎えるにあたり、元気で高齢期を過ごすことができるよう支援し、地域で高齢者を支える体制作りが必要となる。そのため、高齢者を含んだ身近な地域での活動の活性化を図るとともに、高齢者の介護予防に資するための人材を育成する。

2 事業の内容

(1)介護予防指導者（生きがいリーダー）の育成研修会

ア 研修参加対象者・・・30名 ー修了者には認定証を交付ー

各区ごとの状況（地域性）を把握し、1区4～5人（男女）の受講者を対象とする。

（調理実習等の介護予防を含んだ遊びや子供への工芸作り教室等の企画、調整指導等の役割を担う人材を育成）

イ 研修日数・・・9回（30時間）

ウ 研修内容 ・指導者としての役割

・各世代、身体状況による各基礎知識

・介護予防活動の理論、実技研修

・実践発表会

(2)介護予防指導者連絡会の設立

(3)介護予防事業の啓発（取り組みに対する意識の高揚）

ア 各団体への説明会の実施

イ 介護予防事業への意識の高揚のため各区においてデモ事業の実施

### 3 介護予防指導者（生きがいリーダー）の役割

「将来、寝たきりや痴呆にならないで、元気に高齢期を過ごす。」という1つの目標のもとに、小児期からその予防活動に取り組むことを支援する。

- (1)地域における介護予防事業の企画・立案・指導
- (2)地域の人材の掘り起こしと活用
- (3)老人クラブ等の団体に対する介護予防事業の実施及び指導
- (4)各課（生きがい活動事業）の事業への協力

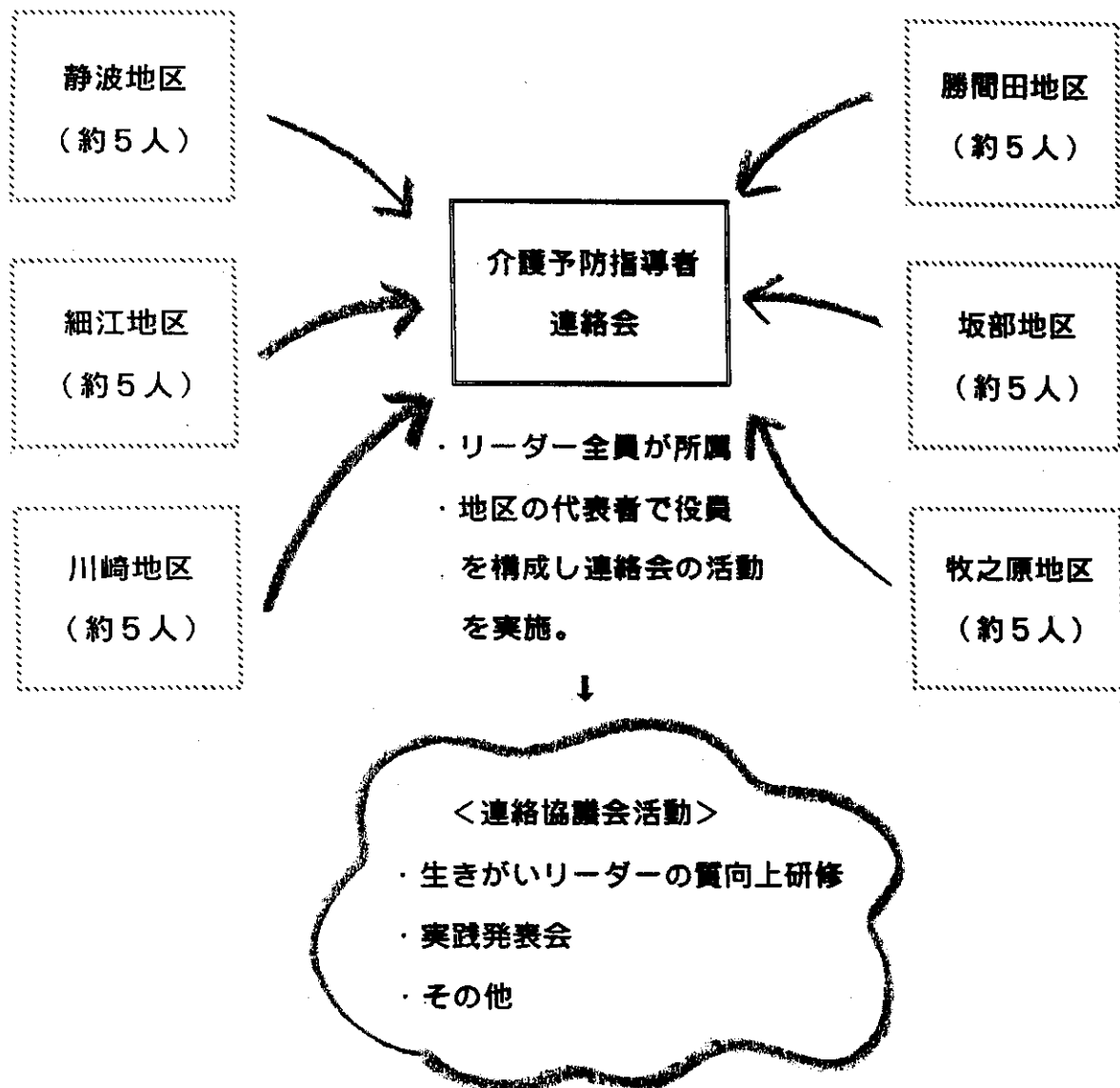
#### <具体的活動イメージ>

対象者	時期別の活動例	世代間交流の例
乳幼児期	・ 母子の遊び方教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 季節の行事の伝承</li> <li>・ *しめ縄づくり</li> <li>・ *季節行事の郷土料理実習</li> <li>・ *民話の伝承</li> <li>・ *もちつき</li> <li>・ 遊びりテーション</li> <li>など</li> </ul>
学童期	・ 元気になるおやつを選び方	
思春期	・ 料理教室	
成人期	・ 生活習慣病予防の話	
壮年期	・ 体力づくり(ウォーキング)	
老年期	・ 趣味の講座	

#### <企画立案時の注意点>

- ・ 各世代において健康づくり、体力づくり、生きがいづくりに配慮した講座等を組み入れる。
- ・ 各世代間交流を意識して企画する。

<町全体の組織イメージ>



4 今後の事業展開

- ・平成13年度から3年間指導者を育成する。(各地区15人程度の指導者が育つ。)
- ・介護予防指導者連絡会が中心となり、各地区が活発に活動できるよう支援する体制を作る。連絡会がNPO法人としての活動に移行できるよう町が支援する。
- ・榛原町の活動をきっかけに他町への波及効果をねらう。

## <生きがいリーダー育成募集要項>

### ◇生きがいリーダー育成事業とは?◇

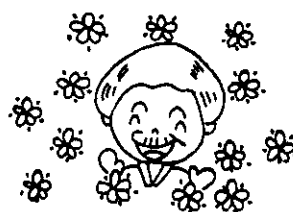
住み慣れた地域で、いきいきと健康で暮らすために活躍するリーダーになるために、体験を踏まえて自ら考え、学習する事業である。

#### 1 指導者の役割

子供からお年寄りまでの全ての年代の人達などが、それぞれの地域でいつまでも健康で仲良く生活ができるように、各地区ごとに交流事業等を実施し健康づくりや生きがいづくりを行う。また、生涯学習の一貫として地域の能力の掘り起こしを行う。

#### 2 募集の時期

6月15日(火)までに所定の申込書を提出



#### 3 申込方法

所定の申込書(作文有)に記入のうえ下記の場所へ提出。

申込書提出先: 在宅介護支援センター(老人福祉センター内)、健康福祉課

#### 4 募集定員

健康でやる気のある方 約30名程度

(書類選考の上、応募者多数の場合は抽選を行います。)

#### 5 研修内容・日程

期間: 7月から10月(研修及び実習)

回数: 半日単位で9回程度

内容: 指導者としての役割

各世代、身体状況に関する基礎知識

介護予防活動の理論、実技研修

実践発表会



#### 6 指導者の研修以外に各地区において啓発活動を実施

介護予防教室(遊びリテーション)を6地区で開催

#### 7 その他

研修修了者には認定証を交付し、地域の「生きがいリーダー(初級)」として活動

\* 託児あり